

知事広聴「平太さんと語ろう」 記録

【日時】平成28年1月18日（月）

午後1時30分～3時30分

【会場】富士市交流プラザ

1 出席者

- ・ 発言者 富士市において様々な分野で活躍されている方
6名（男性3名、女性3名）
- ・ 傍聴者 160人

2 発言意見

	項 目	頁
発言者 1	樹木に関する活動について	2
2	災害支援バイク隊について	5
3	社会教育について	10
4	スポーツ普及事業について	13
5	中小企業の現状について	18
6	芸術・文化について	25
傍聴者 1	駿河湾沿いの波消しブロックについて	30
傍聴者 2	教育と工業技術センターについて	31

【川勝知事】

富士市の皆様、こんにちは。富士山にはお花がよく似合うというふうに言いますが、花の会の皆様方、今日は本当に美しいお花を生けていただきまして誠にありがとうございます。

富士の雪は水ですから、そして今日は足元が悪いですけれども、日光がさんさんと降り注ぐ太平洋側ということで、陽の光と富士山の水とかこの美しい植物を生み出しているということで、富士山のいわば芸術の1つの形がお花じゃないかと思うんですが、本当にありがとうございます。

この広聴というのは広く聴く方でもございまして、私が、あるいは県の方がいろいろと報告をするといいますか、皆さんにお知らせをする広報と違って、広く聴く広聴ということで、この富士市のそれぞれ男の方と女の方3人ずつ代表の方を選んでいただきまして、しっかり耳を傾けるということです。耳を傾けて、これをしっかりと聞きした上で、そして必要なものは実行するというそういう会でもございます。

今日は新々富士川橋の起工式が午前中ある予定だったんですけれども、残念ながら延期ということになりまして、安全祈願祭はやらなければなりません。三大急流の1つということで、自然を甘く見てはいかんとということで、天の警告が今日の警報になったんじゃないかと思うんですが、しっかり安全祈願祭を皆様方とともに、皆様方の気持ちを心根に込めまして、長年の懸案であり、また念願であった新々富士川橋、これが市民の皆様方の御協力によりまして着工の運びになったということは、誠に御同慶の至りであります。

さて、そうしたこともございますので、今日はそれぞれの皆様方の意見をしっかりと聞かせていただきます。どうぞよろしく願い申し上げます。

【発言者1】

発言者1と申します。よろしくお願ひします。余り人前で、余りというかかなり苦手なので、かなり頭の中が真っ白になっていますが、よろしくお願ひします。

まず私の方はちょっと変わった仕事をしていきますので、流れとして私の自己紹介を簡単にして、私どもの活動、今後どういふことをしたいかということが話せばいいかなと思います。

まず私なんですけれども、木のお医者さん、樹木医というちょっと変わった仕事をしていきます。大概の方は、まず聞いたことがない職業で、木のお医者さんって何だろうということで、ミステリアスな仕事な職業ということでよく言われています。

仕事の内容としては、弱ってきた木を診断して、実際に治療するというをやっています。皆さんのイメージでよく言われるのは、聴診器を木に当てて木の状態を健康かどうか見ているんじゃないかということによく言われるんですけども、聴診器は一度も使ったことはありません。

私はそういう仕事をしている関係で、実際私が「樹木いきいきプロジェクト」というNPOの方で、緑とか環境、樹木の関係の活動をいろいろさせていただいています。

実際、私どものNPOの活動なんですけれども、大きく分けて4つ、今のところ4つさせていただいています。

まず1つが、東日本大震災の後に宮城県の石巻の周辺の方で津波の被害があったと思うんですけども、その津波がありますと土壤に塩分がたまりまして、その塩分の関係で木がどんどん枯れます。その枯れていく木を何とかとめられないか、また再生できないかという活動をまず1つさせていただいています。

もう1つが、ここから派生した話なんですけれども、やはり木のこと、土のことを、もう少し小学生とか中学生に知ってほしいということで、学校の方で環境授業というのをさせていただいております。総合学習の時間だったり、例えば理科の時間だったり、相手の要望に合わせる形でいろいろなバリエーションでやっています。ただ知ってほしいのは、樹木のことと土壌のことというのはこうなんだよということを知ってほしいなということで授業をさせていただいています。

3つ目なんですけれども、今これは実は宮城県の石巻市の方でしかなくて、今後こちらの静岡でもやりたいなと思っていることなんですけれども、耕作放棄地がやはり問題になっていると思うんですけども、こちらの方を活用しまして、親子の体験の栽培体験、あと収穫体験、そこで終わると、やっぱりよくある活動にあるんですけども、その収穫したものを使って料理体験の方を親子でしてもらおうということにしています。

やはり皆さん食べるのは好きらしくて、畑の方の栽培収穫の体験だと、余り人が集まらないんですけども、そこに食という食べるという料理教室を加えることによって、毎回の参加者が一定数必ず集まるようになってきて、やはりその辺の食べるということを使いつつ、その耕作放棄地というものが何かできるんじゃないかなというのを最近かなり実感してきたところです。

もう1つ、最後の4つ目なんですけれども、これはまだ今年度試験的にやっているんですけども、盆栽の方を使って高齢者施設、もしくは身障者施設の方に盆栽を置いて、実

際そのお世話をしてもらおうということを通して、心のケアというか、心の気持ちの改善というのに役立つことはできないのかなということで、今試験的に盆栽の方を使って幾つかの施設でさせていただいています。この盆栽については来年度4月以降に本格的にスタートさせたいなというのを今考えています。

実際、今回私どもの「樹木いきいきプロジェクト」の設立のきっかけなんですけれども、やはり一番最初の活動に挙げました塩害対策ということがありました。実際、たまたま縁があって震災の1年後、2012年に宮城県石巻市の方に行きまして、やはりそこで塩害の関係で枯れている木というのを見て、やはり職業柄、これを何とかしたいなということもあったんですけれども、特に学校とか公園の中にある木というのがかなり枯れている確率が高くて、そこを何とかしたいと思って、宮城県の行政の方にいろいろ話をしたんですけれども、やはり木にかける予算がない、堤防とか道路とか、ほかにお金をかけるところがあり、生きている木に関してはお金をかける予算がないということを言われまして、それだったら環境財団というのがありまして、そこから助成金をいただいて、それを原資にして学校の中にあるシンボルツリーといいますか、学校のシンボルになっているような木を塩害から救うことができるんじゃないかなということで始めたというのが、このNPOのスタートです。ただ、その後、今お話ししたように4つくらいに活動が広がってきています。

今後というか、来年度以降なんですけれども、ちょっとお話ししたように、盆栽について、盆栽の園芸セラピーのようなもので、もう少し多くの施設で、今年やったのよりもちょっとひねりを加えて、もっと面白く、楽しく、何か盆栽を使った園芸セラピーの活動ができないかなというのを今準備しています。

あともう1つ、先ほどちょっと宮城県の方だけでやっているということだったんですけれども、耕作放棄地を使って栽培、収穫体験、プラス料理教室という活動をこちらの方でできないかなというのを今ちょっと模索しているところです。

実際、今私のNPOの方で4つ活動をしているんですけれども、それぞれみんな担当者が違います。NPOに会員というかメンバーがいるんですけれども、メンバーがやりたいことをやりたいと言って手を挙げてもらって、そこに何とか財団から助成金を引っ張ってきて、やりたいことをやってもらおうという形で今NPOの方が運営されています。

実際、私の方が木のお医者さんをする前に、経理とか財務とか、そちらの事務方の専門職をずっとやっていましたので、そちらの方の事務方の方はほとんどすべて私一人で、そちらの方のバックアップはするので、皆さん好きな活動を勝手にやってください、あとは

何とか私が尻ぬぐいしますという現状でございます。一応私の方からは終わります。

【発言者2】

災害救援バイク隊ペガサスというバイクを使って救援活動をする、そんなバイク隊の代表をしております発言者2と申します。よろしく願いいたします。

阪神淡路大震災からもう21年目ということで、その阪神淡路大震災の次の年にバイク隊を結成しました。もう20年目になります。その間、特に大きな災害はなく出動することはないと思っておりましたが、阪神淡路大震災の後、中越地震だとか、それから東日本大震災だとか、やはり行かなければならないような災害がありました。東日本大震災のときは、地震の1か月後ぐらいにバイクをトラックに積んで数名の隊員と行ってまいりました。

そこへ行って私が一番びっくりしたのは、「ここまで津波到達区域」という看板がずっと道路に立っているわけですね。その道路から海側に普通に住宅がたくさん建っていて、それが全部津波でやられてしまったというのを見て、ここまで来るとわかっていて、どうして家を建てたのかなという部分、非常にびっくりしました。

もう結論から言ってしまうと、行政側って、例えば土壌、広島で大きな土砂災害がありました。あの崩れるとわかっているようなところに建物を建てる許可をしないような、そういう行政側のぜひ強い態度があれば、命を守れたのではないかなという思いがかなりあります。

やはり何のために我々が何をしなきゃいけないかという部分を一番考えなければいけないんじゃないかなというのを行くたびに考えさせられます。中越地震のボランティアに行ったときは、バイクを知らない方がボランティアの受付をされていました。バイクを見ただけで、「あっそのバイクは関係ないよね」というような言い方をしたので、バイクで何か役に立つことがあればとって、全国から集まってきた人たちが、結局帰ってしまったという悲しい現実も耳にしました。

できることをやりたいという思いをしっかり受け止めて、いろんなボランティアの人たちの受け入れというのもいろんな形であると思いますので、それも可能にしていればありがたいなというふうに思っております。

それから私は個人的にですが、子供会の方の役員もさせていただいております。東日本大震災のときに中学生や高校生のジュニアリーダーの子たちが非常に役に立ったと。大人と子供の間に入って、取り持つということもありますが、子供たちの遊び相手になってくれたりとか、地域の皆さん方が避難所で沈んでいるところを子供の笑顔でみんなが明る

くなったというような、そんなお話もあります。やっぱり子供の力は大きいなということで、私も自分も母親として、子供たちの命を守って、それから育てていくというそういう使命があります。そういうことも考えますと防災教育ですね、子供たちへの教育、これをもっと充実させていただきたいなというふうに思っております。

自然災害というのは避けることができません。災害というのは、たかが地震で人は普通は死にません。そこに建物が建って、人が住んでいるので災害になってしまいます。そういうことを考えると、避けられるものであれば避けられるような、そんな方策というのをぜひ考えていきたいというふうに思っております。

そしてハード面では幾ら津波の防護壁というか、つくっても津波にやられてしまったという現実があります。やはり自然災害避けられないのであれば、起こってからどのようにそれに立ち向かっていくか、生き延びるためにどんなことをしなければいけないかという知恵や、絶対にあきらめてはいけないというそういう精神面、そういったソフト面の教育というのをこれからは絶対に必要ではないかと思えます。

やっぱり皆さん、東日本のときから絆、絆というふうに言われていますけれども、いろんな団体との横のつながりもちろんそうです。地域住民のつながりももちろんそうです。いろんなところで皆さんが手を携えて、絶対にあきらめないという気持ちで前へ進んでいけば、あらゆる災害、今どんなことが起こるかかわからないような時代になっています。

大きな地震だけではなく、それこそ本当に思わぬ事故とか、そんなことも皆さんが予想されないようなことが起こるような時代になっています。そういうときにいちいちそれに振り回されるのではなく、そんなことがあっても大丈夫だって思えるようなそんな社会にしていきたいなというふうに思って日ごろ活動させていただいております。私の要望は以上でございます。

【川勝知事】

発言者1さん、発言者2さん、どうもありがとうございました。

発言者1さんは、樹木の先生でいらっしゃるということで、樹木医として私が知っているのは浜松にございますフラワーガーデンの方、あの方は樹木医、そういう人が来ると、庭の様相が一変するんですね。植物のことについて診断することができて、何がこの土地には向いているか、あるいは今この樹木はどのように弱っているか、あるいは元気であるかということで、おわかりになると。こういうことは学校でなかなか教えてくれませんか。ですからそういう方が富士市にいらっしゃって、そして子供たちにも関わっていただいて

いるというのは、とてもありがたいことだなというふうに思います。

こういう花も植物も皆そうですけれども、枯れると土になるわけですね。土は従って死骸なわけですけれども、その死骸である土が今度は土壌になって植物を育てるということ循環をしているわけですけれども、こうしたことは学校の本を読んでもわからないじゃないかというふうに思います。

これが塩害でやられているから枯れているんだというようなことは、やっぱりそれ見ないとわからないんじゃないかと。それを東日本大震災をきっかけにして向こうに行って、そして塩害から植物を救う、あるいは土壌を改良するというその試みをなさっつていながら、こちらに来られて、こういう樹木や、あるいは土を活用したそうした動きをしていこうということで、耕作放棄地を見つけられたわけですね。

実は静岡県は耕作放棄地が 12,000 ヘクタールぐらいあります。12,000 ヘクタールが全耕作地の大体 17~18%です。日本全体では 7~8%しかないので、静岡県の耕作放棄地は実は多いんです。それで 5 年ほど前にこの耕作放棄地を解消するというところで、不退転の決意でやり始めました。

ところが 12,000 ヘクタールの半分くらいは、もう 10 年以上放ったらかしになっていまして、やぶ化していて手のつけようがないとか、あるいはもう地主さんがどこにいるか分からない。要するに東京に出られたり、その土地に関与することができないので、6,000 ヘクタールぐらい、その半分ぐらいは手の施しようがないわけです。残り 6,000 ヘクタールのうち、半分くらいがやっぱりそれになりかけていると。

実際手がつけられるのは 3,000 ヘクタールぐらいだということになりまして、それでも 1 年放っておけば余計悪くなるので、それで実はこの 5 年間で 2,600 ヘクタールまで、全体 12,000 ヘクタールで言えば 4 分の 1 ぐらいです。そのくらいまで回復したんですよ、元に戻したんです。ところが、同じ勢いで耕作放棄地が増えているんです。

ですから実はどんどん留めても、どんどん留めても耕作放棄地、つまり我々の祖先が、あるいは実際まだ御存命の方たちが一生懸命手をかけて育ててこられたところが手間暇かけないで放ったらかす、それを何とかしたいというのが、発言者 1 さんじゃないかと思うんですね。

そして、じゃどうしたらいいかということで食をヒントにされたと。食べたり飲んだりするものの材料を我々は大地からいただいているので、そして今 21 世紀の最大のテーマは食じゃないでしょうか。21 世紀、この間の万博はミラノで食をテーマにしましたですね。

こんなことは 150 年前、初めて万博をやったときには機械の展示だったわけです。新しい機械を展示して、そして世界にこういう技術ができましたよということを知らせるのが万博だったんですけれども、いよいよそれが食になりました。食が世界の最前線です。しかも日本の和食がユネスコの世界無形文化遺産になりました。

しかも日本の中で静岡県は農産物だけで 339 あります。圧倒的にトップです。海産物もシラスをはじめ、たくさんありまして 439 の食材があります。

それから人が役に立つというのは、自信もつきます。何かためにするといったら力がなくてできませんので、そのために一生懸命勉強したり、技術を身に付けられたりするわけですが、植物にお水をやる、そして枯れたお花を取ったりしてお世話をすると、ちゃんと応えてくれるじゃありませんか。

ですから何かの役に立つということで、一番簡単な一番いい方法が園芸セラピーという、それを盆栽で、盆栽は美しいですから、つくったものが美しくできてくると、あるいは美しく保てると。相手は生きていますので、そういうのは心に確実にいいと。

耕作放棄地は我々の祖先というか、地元の方たちがつくってきた大地ですから、そこを大事にして一緒にやっ払いこうということで、これが新しいこれからの勉強の仕方になる、新しい勉強の仕方がこれから必要なんじゃないかというふうに思った次第です。

それから同じことが発言者 2 さんの、もともと阪神淡路大震災でバイク隊をつくられたと。大体瓦礫が落ちていますから普通の車は入らないですよ。ですから私どもも東日本大震災で岩手県を担当に言われたときに、3月18日に先見隊を送りました。そして5日ぐらいたら報告が入ったんですよ。普通の車は入らないので、四輪は軽トラックにしてくれというふうに言われました。それよりももっときちんと現場まで入れるのはオートバイですね。もちろんガソリンは必要です。

けども、オートバイというのが人のレスキューの役に立つということで、中越のときにそれが理解できないような職員がいたというのは、これは非常にやっぱり問題でしたね。

交通の安全はとても大事ですけども、そういうバイクが何をできるかということはとても大切なことで、レスキューというそういうことについて。

それから自然災害は止められないというのは、これはものすごい重要な真実だと思います。富士山の噴火をだれが止められましようか。止められないですね。地震も津波も止められません。しかし被害を少なくすることができます。それはどうかと。うちでは1979年、昭和54年から東海地震説というのがありまして、その備えをやってきていますから、海で

地震が起こると波ができて、それが大きな波として津波として被害を及ぼすということになりますから、富士市などではきちっとした防潮堤ができていますのは御案内のとおりです。

しかし、それでもやっぱり人間のつくったものは壊されますので、できたら内陸に行っただ方がいいということで、新東名というのが平成 23 年、まさに東日本大震災が起きた年に、平成 23 年 4 月 14 日に開通したんですよ。しかもこれ 1 年半前倒しです。しかも静岡県だけです。全部で 162 km です。こんなものが一挙に開通したのはどこにもありません。その中心が新富士のインターです。そこは内陸にありますから、したがって海側よりは少なくとも津波に対しては安全だということですから、内陸に新しいフロンティアができたということで、「内陸のフロンティア」というふうに言っております。

そうすると、いわば内陸側に移ればいい。しかし 505 km の海岸線がありますから、田子の浦というすばらしい港もあります。港を捨てるというにはいけないわけですよ。あるいは港と人間が遮断するというのもよくありません。

ですからそれなりの整備はしないといかん。田子の浦の公園をつくっておりますね。そこには逃げられるようにちょっとした命山みたいなものを、37.76m のあれをつくろうということで一生懸命やっておられるんですけども、そこに逃げればいいということなわけですが、そういうものをつくりつつ、海に親しむと、景色も親しむと、また漁業もするというので、海と親しみつつ安全にするということがこれからの課題なんじゃないかと。

静岡県はその意味では防災の最先進県で、それがなぜできているかというところ、この発言者 2 さんみたいな人がいるからなんですよ。そしてこういう防災教育というのは、学校でなかなかやってくれませんよ。本当に中越地震に行った、東日本に行った、あるいは阪神に行かれたと、そういうことをなさっている方の経験からしか教えられるんです。だからこういう防災教育だとか、あるいは大地についての勉強だとかがこれからの勉強なんじゃないかと。

ですから、富士川は三大急流だというふうにさっき教えていただいて、あとはどこだといったら知らなかったです。球磨川と最上川ですって。最上川は山形県でしょう。山形県で 250 km ぐらいあると思いますよ。しかも山形県下だけで、その流域が全部支流が走っているんですよ。山形県の 3 分の 2 は最上川流域なんですよ。あるいは 4 分の 3 かもしれません。そうすると山形県は最上川とほとんど一緒です。その周りに水があるから人が住んでいるわけですよ。

そうすると最上川見に行こうじゃないかと。そうすると急流でも日本海側の向こうとこ

ちらとえらい違う。向こうは例えば俳句なんかがありますよ。「五月雨を集めて早し最上川」、芭蕉の俳句がある。そういうのも一緒にあわせて覚える。

そしてもう1つ球磨川、球磨川というのは熊本県です。九州まで行こう、富士山静岡空港のエアポートを使って行ってみようじゃないかと。福岡まで行って、そこから新幹線に乗って球磨川見て、これうちの富士川というのは実は三大急流の1つだというふうに言ったら、ものすごい勉強になると思うんです。

こういう勉強の方がおもしろいと思うんですよ。私はこれから本当に子供たちに生き生きとしたものを、学校の先生プラスアルファこういう大人で教えていくことが、それぞれの経験の一端をみんなで、毎日でなくても、仕事の合間に上手に計画を立てて教えていくことが大切ではないかという感想を持ちました。ありがとうございます。

【発言者3】

よろしくをお願いします。私は、富士市で小さな会社をやっております経営者なんですけれども、その立場から社会教育について少しお話をしたいと思います。

私、吉原というところに今住んでいまして、戦後だったと思いますけれども、うちの町内に子供たちが50人ぐらいいたそうです。ただ今年小学生はゼロになりました。それだけ子供たちがすごく少なくなってしまうという現状があるんですけど、子供たちが少なくなっただけじゃなくて、実は子育て世代の人たちがいなくなってしまう。いわゆる街中ですから、お年寄りが住んでいるだけと。たまに、息子たちは東京に行って、都会に行って、盆と正月に戻ってくるというような状況が今の街中の現状なんです。

私、祖父が、戦時、戦争に行ったんですけれども、傷痕軍人ですから鉄砲玉を打たれて帰ってきたんですね。この吉原の地に戻ってきて、そしたら製紙工場が当時は軍需工場みたいな形になっていましたので、かなり荒廃した世の中で、そのときに祖父が帰ってきたときに、これから街を復興させるためには子供たちの教育が大切だということで、紙と鉛筆を東京の間屋に仕入れに行って、そこから商売が始まったというような話を聞いております。

ですから、まず基本的に経営者として社会のためにどうやって役に立つかというのが、当時の人たちがいろいろ考えたおかげで今こうやって富士市が発展してきているのかなというふうに考えます。

そして、当時は、5つの五大企業がこの富士市を発展させてきました。でも現状今その大きな企業が縮小したり合併したりということで、本当に富士市の産業というものが徐々

に徐々に少なくなってきた。

そんな現状の中、当時は九州とか北海道とか、たくさんの人が富士市に仕事を求めてやってきました。この土地で家を建てて、車を買って、家族を養って、ここで生活していた。でもそういう人たちが、今私たちの世代がいるかという、実際は港から出てきてしまっているということで、やっぱり人口流出というのが顕著に目立っているのかなというふうに感じます。

経済人として、個人としても、富士市の青少年の船という子供たちの事業を長年やってきました。その中ですごく気づいたことがあります、学校と親というのは、どうしても必要な存在です。もう1つは友達、親と先生が例えば縦軸であるのであれば、友達は横軸、私たち一般人というか、私たちの存在というのは、指導員としては斜めの関係。斜めの関係というのが今すごく子供たちにとって必要じゃないかなというふうに感じております。

親や先生には言えない。でも友達というには、意外に今の子供たちは真面目なことを真面目にやるのがなかなかできません。ついつい何か格好悪い、真面目なことが格好悪いというふうに思ってしまう、心と行動がどうしても伴わない。そんな中に私たちが斜めの関係で、実際に子供たちの本音やいろんな相談を受けて、子供たちが本当にやりたいことを見つけさせてあげるのが私たちの青少年健全育成事業というふうには実は考えております。

そんな中に、青少年の船というのは、同じ世代だけでなく異年齢交流というのがあります。小学生から中学生、高校生、大学生、そして社会人、たくさんのいろんな世代の方と交流を持つことによって、その人たちの考え方、背中を見ることによって、本当にそういった真面目なことを一生懸命やるということが、仲間ができるということが一番本当に役に立っているような状況です。

今、人口流出の話をしてきましたが、若い人たちがいなくなったということで、一生懸命行政の皆さんは企業誘致しましょうとか、そういった子育て世代の人たちにこの富士市で住んでもらうために企業誘致、いろんなさまざまなところをやっていると思うんですが、私一つ、まず若い人たちがこの富士市にボランティアとして実際に参画できるような場所が本当にあるのかというふうに思っています。

この富士市は、もちろん子供たちに親に育てられて、親に感謝しなきゃいけないというものもあると思うんですけど、やっぱり現状その富士市の税金を使って、ここまで大きくな

ってきたわけですから、この富士市に感謝しなきゃいけない。そしてこの富士市のために1回は外に社会人として出ましたけれども、もう1回この富士市に愛郷心を持って、この富士市のために役に立ちたい、そんなふうなことを思ってくれる若い人たちがこの富士市に戻ってきてくれればいいなというふうに思います。

そのためにも、もちろん仕事というのもあると思うんですけど、人生はやはり長いですから、そんな中に本当に心の相談になってくれる友達、家庭、そして私たちを育ててくれた先輩たち、特に社会教育ではそういった先輩たちの背中を見てきましたので、これから私たちが今度富士市に戻ってきて、次に私たちがその子供たちを社会教育として指導してあげたい、そんな気持ちになってこの富士市に戻ってきてくれれば、そこからこの富士市は人口流出というのを少しでも私は止められるような感じがしております。

もう1つは、商工会議所青年部として今キャリア教育という点でやっております。キャリア教育というのは、いわゆる中学生、高校生によくある職場体験というのをやっていると思うんですけど、そうやって企業、会社の仕事を体験するというのは、キャリア教育の1つではあるんですが、実際職場の仕事の業務を体験するだけでは、子供たちが「仕事ってこんなもんだな」みたいな程度しか思わないんですけど、今の新しいキャリア教育というのは、どんな思いでこの会社を続けているのか、どんな目的を持っているのか、もしくは会社社長さんが社会にどういうふうにご貢献しているのかということ、やっぱり私たちはどんどん子供たちに伝えていかなければならない。仕事はお金儲けをするだけのものではないと。やはり地域に貢献するのが会社の役割なんだよと、そういったことを今子供たちに一生懸命教えています。

それと同時に、子供たちには私たちと一緒に企業PR、体験するのではなく、高校生、大学生と一緒に、私たちの会社と一緒にPRしましょうと、そんなふうな形を持って今子供たちと一緒にキャリア教育というものをひとつつくり上げていこうというふうに考えております。

そして、やっぱり官民協働、子供たちの教育を考える上で、これからは行政は行政、企業は企業というそんなふうな考えでなくて、本当に企業と行政が一緒になって、これからの富士市をつくっていく。そのためにも今大切なのは子供たちの教育、特に学校、家庭という部分では、なかなか私たちは入り込める余地はありませんので、社会教育という立場で、富士市の未来を担う子供たちを育てていかなければならない、そんなふうにご一生懸命考えております。

ですから、これから皆さん人口流出というような場面があると思いますけど、まずやはり若い人たちがこうやって活動できる場面というのをぜひとも県また市の協力を得てつくっていききたいなというふうに考えております。以上です。よろしく申し上げます。

【発言者4】

富士市体育協会の発言者4と申します。よろしくお願ひいたします。

富士市体育協会は市内41のスポーツ団体が所属しておりまして、スポーツの普及・振興や、市民の健康・体力づくりを目的に活動しております。

体育協会の活動の紹介の前に、まず私の自己紹介をさせていただきます。私のスポーツでの専門は、武道の少林寺拳法を専門といたしております。少林寺拳法というのは、空手のような突き蹴りと、合気道や柔道のような投げ技の両方行っております。大学の体育会少林寺拳法部に入部し、武道の魅力に取り付かれまして、その後卒業後、コーチ、実業団に所属して活動しておりました。

その後、結婚して富士に参りまして、現在は道院長、道場長の主人を補佐して、小学生から大人まで指導し、また各種大会に家族で出場いたしております。

一度出産のときに活動を休止していましたが、子供が2歳のときに復帰しまして、子供とまたゼロから一から学び直したことが、現在大変大きな財産となっています。

そのおかげで親子三人演武という、普通は親子までが多いんですが、親子・家族で演武ですね、型を披露するもので、少林寺拳法連盟本部公認デモンストレーションチームというところへ選出されておまして、全国各地で演武を披露いたしております。

昨年はイギリスでこの家族演武を披露させていただいたところ、海外ではあまり親子で修行するケースが少ないためか、大変好評を博したと自分では思っております。海外の方は率直に声をかけていただけるケースが多く、大変よかったですと思っております。

体育協会の主なスポーツ普及事業の中に独自の取り組みとしまして、市民から公募して「S-1チャレンジ」というスポーツ教室を開催いたしております。これは41団体のうちの皆さんができるような30団体ぐらいに協力いただきまして、週1回全10回のコースで、市民の方から年3回募集しております。

例えばソフトバレーとか、サッカーといった球技、それからボーリングやゴルフ、あとはビームライフルといった、普段余り体験できないような種目、それから武道などバランスよく設定しております。それで応募で約40名程度の方に行っていただきますが、かなりバランスがいいものですから、1年もやっていただくと、動きが1つの種目をやっている

ときより大変バランスがよくなって、健康増進にもつながっていると思います。

この「S-1 チャレンジ」では託児コースもありまして、子育て中のママさんも一緒に参加して楽しんでいます。この託児利用者の方は、その後子供さんが幼稚園や小学校に入学した後も、継続してスポーツをされるケースが非常に多くて、ほとんどやめないケースが多いです。もともとS-1の受講者という方はスポーツ好きで、すごい熱心な方が多いんですが、その方たちの中に新しい新鮮な活気などをその託児のお母さんたちがもたらしてくれていると思います。

その託児の終わった後に、帰るときに、託児のボランティアの方とお母さんたちがよく話しているのを毎回見かけるんですが、お母さんがスポーツを楽しんでにこやかになると、自然に待っていたお子さんたちにもそれが伝わるというか、すごい伝染力があるなといつも感じております。

S-1はこれ以外に、S-1ジュニア、それから夏の夜間特別企画なども企画しております。ジュニアの方は、今のところ年1回で、やはり同じようにいろいろな種目を5回コースで行っていますが、スポーツ好きの子も、苦手な子も一緒に活動するんですが、最終回にはやはり驚くほど身のこなしが変わってしまっていて、1つの種目ではなくて、昔はいろいろ外で遊んだりできたんですが、少ないながらもその手助けになっているのかなと思っております。

それから夏休みは、去年は親子企画を行ったんですが、こちら親御さんの方は、子供さんに意外に体力があったり、身のこなしがいいのにすごい感動していらっしやったり、逆に子供さんの方は、お父さんやお母さんがすごくスポーツが上手なので尊敬したりと、非常に見ていて感動的です。

ただし、指導の面で親子でやると、どうしてもお父さん、お母さんが子供さんをちょっと叱ってしまったり、子供さんができなくて嫌になってしまうケースが多いので、指導の面で、大人だけの時間、子供だけの時間、それから親子で楽しむ時間といったように、内容に配慮することが非常に重要だと思ひまして、指導者の経験や力量が問われる会だと思っております。

このジュニア企画や親子企画は、今後さらなる検討をしていきたいと思っております。特に私も先ほどの自己紹介にありましたように、家族でスポーツをして、とても大きな財産をもらっているものですから、いろいろな形で支援していければと思っております。

1つ要望といいますか、S-1チャレンジの託児では、託児ボランティアさんといいま

して、市の方の託児ボランティアさんにも御協力いただいているんですが、どうしても人数が少なく、S-1チャレンジそのものの中で託児の受け入れ人数がとても少なく、抽選ばかりになってしまっております。今後さらなる御支援、御協力をいただければと思います。どうぞよろしく願いいたします。

最後に、体育協会では、このスポーツ普及事業のほかに、競技力向上として2年前よりジュニアアカデミーというものを参画してまいりました。現在企画から指導を始めておりまして、主にメンタル面や体のケアなどを中心に活動を行っていきたいと思っております。どうぞ御期待ください。

【川勝知事】

どうも発言者3さん、発言者4さん、ありがとうございます。感心しましたですね。

ちなみに発言者3さんは商工会議所の青年部で。実はですね、通常役所ですと60で定年ですね。65で高齢者になって、そして75で後期高齢者になると。これおかしいでしょう。後期高齢者というのは、社会の何となくお荷物みたいなイメージがあるんじゃないですか。

青年の次は何でしょうか。壮年ですよ。壮年をいつまでにするかということで、そうすると健康寿命というのは御存じですか。年齢を重ねても日常生活に元気で支障を来さないという、それが静岡県が一昨年で日本で、昨年は伸びたんですけども、山梨の方が伸びましたので全国2位と。それが75点数歳なんですね。76歳なわけです。そのころまでは元気だということで、そこまでが壮年ということであります。

ちなみに、こちらは元気な人が多いのですけれども、大体青年会議所というのは40歳以下なんですよ。多くのところは45歳以下にしているんですね。富士市は50歳以下です。私どもは45歳以下は青年だと。じゃ青年の前は少年少女、少年少女が青年になるのは選挙権、つまり17までが少年で、18歳から青年に入ると。

そこで高齢者という呼び方を皆様方、富士市では捨ててください。これは実はだれが発明したかという、国際保健機構というのがあるんですよ。それが昭和31年、1956年にWHO世界保健機構というところが65歳をもって高齢者とすると、国連の機構の1つですから、そうお決めになって世界に通告したわけです。1956年、もう今から60年前のことです。そのころは日本人の女性の平均寿命が65歳ぐらいだったんですよ。男性は60歳代の前半でした。ですから何となく65歳で高齢者というのが受け入れられたんですね。

ところが今は男性も女性も80を超えています。ですからもう時代遅れなんです。厚生労働省はまだそれをずっと使っておられるんですね。だから我々はもうそれをやめるという

ことにしまして、それで76歳までが壮年です。77歳は皆さんお祝いをしてもらってくださいませ、喜寿ですから。そして80代になると、もう少し自分を大事にするということで、老人真っただ中、中老です。88歳になると米寿ですのでおめでたいですね。ですからこれも大いにおめでとうございますと皆さんにお祝いしていただいて、90歳になると卒寿、そこで90歳になると中老から長老になるわけです。

長老というのは偉い人じゃないでしょうか。ですからもしもめたら、長老のところに行って、そういう方がいらして、そういう方に90歳を超されたら、大事な問題については長老に聞いて決めようじゃないかと、そういう敬老の精神が日本の精神じゃないかと思いません。

ですから私どもは、もうそういう人生区分、実態に即した形でやっていきたい。その代表、青年の発言者3さんがおっしゃっていることは、いかにも青年らしいですよ。青少年の船をやっておられて、そして子供たちをその育てる世代が少なくなっているのもみんなで育てよう。小中高、社会人、そして子供たちを企業見学に行くと。企業見学に行く1番いい年というのがあるんです。中学2年生ぐらいです。思春期の始まりですね。

そのころはお父さんやお母さんのことも、あるいは自分のことも考えるようになって、そして、ただ家に帰ってくるお父さんにしろ、お兄ちゃんにしろ、疲れてくる。ところが企業見学に行くと、皆きびきび、きびきびと一生懸命仕事しているでしょう。そうすると、「あっこんなふうには仕事しているんだ」というふうな気づきがあるそうですよ、中学2年生というのは。

しかし今、発言者3さんがおっしゃったのは、それだけでも不十分だと。むしろ会社の社長さんとかが、あるいは社員の方が、この会社はどういうふうにして社会の役に立っているとか、あるいは会社の社長さんが子供たちに自分はこういう使命感を持ってやっているというふうに言われると、これは学校の授業は忘れても、そういう外に出て全く知らないおじさんからすごい話を聞いたというのは忘れないですよ。

ですから今ずっと3人とも、何だかんだ子供の教育について熱心に語られているということに感じ入った次第です。

もっと感じ入ったのは発言者4さんですね。感心しました。お子さんが産まれた後、お母さん、お父さんも含めて、親子で演武をしてイギリスまで出かけたというんですから日本の誇りですね、富士市の誇りですよ。体育協会の誇りです。

そういう方がいらして、ちゃんと計画を立ててやっていらっしゃる。その中に幾つもの

ントがありましたけれども、お母さんがやっぱり影響力があることですね。お母さんがやっている、男の子でも女の子でも、あつままのように、お母さんのように自分も頑張ろうと、そういうふうになるということで、そのお母さん教育をしていただくそういう先生でもある。もちろん子供の教育も含めてですけども、しかも親と子だけでやると、なかなかいろいろと要求や、あるいは子供に対する見方もあるので、そのところを案配しながら、スポーツも教えていかなきゃいけない。

スポーツは学業と違って、目に見えますので、目の前で強い弱いもわかるし、型がきれいとか、汚いのも、さっと見てわかりますから、ものすごい効果があると思います。ですからそういう意味で、スポーツの持っている教育効果は絶大だ。しかも健康になるということ。いざという時にはスポーツをやっていると根性が僕は養われると思うんですよ。根性ほど大切なものはないと思います。もちろん根性の性というのは、性質の性ですね。感性、これは芸術ですよ、知性というと学問でしょう。

知性、感性、根性、どれが一番大事か。私は一番の根っこにあるのは根性だと。根性は何で鍛えられるか。根性はやっぱり我慢することですから、あるいは何としても努力をすることですから、これはスポーツじゃないかと。体が資本だと思うんですよ。そういう根性を鍛えていくと、いざという時に別のことでも頑張れるということで、もっとスポーツを盛んにした方がいいと。体育協会をもっと応援しなきゃいけない。

S-1チャレンジの託児ボランティアが足りないとおっしゃった。とにかく応募者が多いということですね。だから応募してくる者、来る者は拒まない。助力は惜しまない。見返りは求めない。

来る者は拒まない、助力は惜しまない、これが我々行政の仕事じゃないかと思います。

とにかくそういう方たちがいらっしゃるの、どういうふうにすると、この託児ボランティアで応募してくる人たちを拒絶しなくて済む方法があるのか、必ずあるはずだと。恐らくもうお考えになっているプランがあるに違いないので、県で努力できるものはしてまいりたいというふうに思った次第であります。

それからまたこのジュニアアカデミーというのは名前がいいですね。スポーツを中心にしていますけれども、これはやっぱり富士山に登る道が幾つもあるように、英数国理社というそういう知的な偏差値に関わる場所だけの教育ではなくて、いろんな道筋をつけてあげるのが大事だと。

思い切って言えば、子供たち忙しいでしょう。先生もそのために忙しいと。子供たちは

学校から帰ったら塾に行くそうですが、あるいは恐らくこういう先生に教えていただくためには土曜日とか日曜日とか夏休みじゃないかと思うんですけど、もっと日常でこういうものができないものかと。

今のような教育が当たり前だと思わなくてもいいんじゃないかと。そして、いいということがあれば、もちろん強制はできませんけれども、どこかでモデルをつくって、そこで1回やってみると。それでいろいろと試行錯誤しながらいいものを取り入れていって、できるんじゃないか。そうすると先生の御負担も少なくなるし、社会総がかり、地域総ぐるみで子供たちを育てることができるというふうに思いますね。

それから60歳、65歳で定年退職しても、実際は元気ですよ。元気な高齢者、そういう壮年期の人たちがたくさんいるので、全員でそういう人たちが上手に組織がつくられると、子供の教育の役に立つと。

我々、今スポーツにおいて、地域クラブをつくろうということで、磐田から始めようと思って、あちらはラグビーの名監督がいらっしゃいますので、その方は東京でかつてそういう地域クラブをつくられた、いろんなものを選べるそうです。今、発言者4さんがおっしゃると同じようなものです。いろんなものを選べると。子供は学校での放課後の学校の先生の部活じゃなくて、違うものもやられるということです。そうした試みをやろうとしていますけれども、ここもそれが独自にできるんじゃないかという印象を持ちました。ありがとうございました。

【発言者5】

皆さん、こんにちは。ただいま御紹介いただきました発言者5と申します。富士市にあります会社の代表取締役社長であり、また富士市工業振興会議の委員をしております。

実は社協の教育委員もやらせていただいておりますが、今回は教育に関していろいろとお話が出ておりまして、産業界の方から少しお話をさせていただきたいなと思っております。

中小企業の現状と、それから新素材ナノファイバーの件と、それからBCPに関して、この3つに関して、これから少しお話をさせていただきたいと思いますが、その前に企業の方の御紹介を少しさせていただきたいと思っております。

弊社は1916年創業になりますので、今年でちょうど創業100周年を迎えることができました。造船の木型をつくったのが初めなんですけれども、そこから製紙の木型、自動車の木型をつくって、現在に至っております。

現在は、自動車の開発業務を行っておりまして、厚木にデザインデータセンターを置きまして、デザインモデルをつくり、そこから試作型、樹脂型、大量生産用の型をつくりまして、設備用の型、機械ですね、などを手がけさせていただいております。

そんな現状なんですけれども、先ほどお話に出ておりました壮年熟期の方々が、弊社には1割います。なぜ1割かといいますと、この年代の方々は巧みな技を持っているからなんです。指で触って、木型をつくった方々は、コンマ1ミリの差が指先でわかります。コンマ1ミリです。1ミリの10分の1です。これが触ってみて、「あっ、コンマ1違う」と言うんですね。これはすごい技だなと、私は自負しています。

そんな方々がこの壮年熟期に当たるわけなんですけれども、今人手不足と言われている中で、高齢者の方々もぜひ長く働いていただきたいと思っている中、保険の活用というのもぜひ考えていただきたい。高齢者の方々は、どうしても目にきます。でも目の高度な手術を受けると保険が効きません。でも働くためにはそれが必要なんですね。ここを何とか保険が効くようにしていただけないのかなということのを常々考えたりします。高齢の方々を長く働いてほしいと思うのであれば、そのような保険というののもちゃんと整備していくべきではないかというふうに考えています。

さて、弊社は3,4年前から中国等々とお仕事をさせていただいております、静岡空港ありがとうございます。武漢への直行便がありまして、使わせていただいております。月に10日間ほど、必ずこの武漢の方に行くんですけれども、ありがたいことにと県は思っているでしょうけれども、中国の方々が多くて、荷物の置き場がないために、外で待たせることが多々あります。

これをまず解決してほしいなということと、もう1つは、中国便は遅れます。静岡空港に最大で8時間滞在したことがあります、することがありません。で空港に何か滞在していてもいられるような場所をもう少しつくっていただけるとありがたいと思います。1カ所の食堂に5時間ぐらいたったことがあります、もう少しいられる場所があるといいなということ、うちの営業がぜひ言ってくれということで、今日はまず最初にそれを言わせていただきました。

さて、中小企業の現状なんですけれども、経団連の賀詞交換会、ニュースでお正月に流れておりました。御覧になりましたでしょうか。私はそれを見ながら、この温度差は何だろうと思いついておりました。やはり経団連ともなると、巨大企業の経済人の方々が発言をなさっておりますので、その内容と、私たちの地方にある中小零細企業が思うところ

ろとは非常に大きな温度差があると本当に思いました。

非常に利益が出ましたとか、史上最上の利益ですとか、大手自動車メーカー社長さんの給料が公表されていて、びっくりするような金額で、うわっと思ったんですけども、そのようなことを聞いていて、私たちは「3本の矢」が大手に行ったなら、あっそろそろ中小零細に下りてくるかなと思って、ずっとこの2年ほど口を開けて餌が落ちてくるのを待っているんですけども、ちっとも餌は落ちてきません。

何が来るかというのですね、去年、その大手自動車メーカーからコストダウンが始まりました。あんなに儲かっているのに何でコストダウンが来るんだろう。ちょっとこの辺はムカっとしまして、「えっ、社長の給料下げればいいんじゃないですか」って言いたくもなったんですけども、そこは下請けの辛いところで「頑張ります」と。頑張るしかないですね。下請けは切られてしまうとお仕事がなくなってしまうのでね、「頑張ります」と。

いろいろな付加価値をつけながら、そのコストダウンに耐え得るように、なるべくコストが下げられないような努力を一生懸命に中小企業はしています。遡ること、リーマンのときに、ものすごいコストカットをされました。御存じだと思います。仕事がなかったんですね。なので、赤字覚悟で、これじゃやらない方がいいなというような金額でお仕事を受けました。大手からそういう達しが来ていたわけですね。でも、大手と一緒に生きてきた私たちは、じゃ頑張ろうと思って、それでも引き受けて頑張ってきたわけです。

何とか生き延びて、次に円高不況で、そしたら大手さんはとっとと外にシフトをしました。外にシフトをして、今度は中国、東南アジアと戦えと言います。とってもコストではかなわないです。こんな空しい戦いをいつまで私たちはやっていくんだろうと。中小企業零細企業のお父さんたちが、社長さんとよく話をしました。そういう中で、仲のいい企業の方々が倒産していくのを、こうやって眺めていくしかないということがたくさんありました。

それでも大手の方々は、外に出て、そこで何とか利益を得て、今回アベノミクスの「3本の矢」が放たれて、景気が回復して、円安になり、さあ私たちにも飛んでくるのかなと思ったら、コストダウンの要請が来ました。でも、賀詞交換会では首相と、それから日銀の総裁さんから、「経済が回らないのは君たちが賃金を上げないせいだ」とかと言われて、「賃金を3%上げなさい」と言われたときに、「わかりました、賃金上げましょう」と言っていました。大手さんの賃金は上がるでしょう。

でもコストダウンを言われている中小零細は、賃金を上げることができません。でも、日本も静岡も富士市も中小零細企業がほとんどなんです。ここのコストが上がらない限り、絶対に賃金を上げることができないんです。ここの賃金が上がらない限り、日本全体の経済が回っていくということはないんじゃないかなと私は思っているんですね。

それで、静岡県はものづくりの県です。富士市は工業都市です。ぜひこの大手にはたくさんの方の法人税の軽減とか、いろいろ出ているんですけども、それにも勝る中小零細が元気にたくましく生きていけるような施策をいろいろと打ち出してほしいなと思っています。

補助金、助成金等々たくさん出ております。ただ、その情報がなかなか小零細企業のところにまで回ってきません。これはインターネットで見にいけばあるよと必ず言われます。見に行けばあるんです。でもそれをなかなか見にいけないのが小零細企業のお父さんたちの社長さんがやっている会社であります。でも、ここが一番それを必要としています。なので、この情報をいち早く小さな中小零細企業に回るような方法をもっともっと考えていただきたいなと思います。

『下町ロケット』というテレビが非常にヒットをしました。皆さんは「おっ、頑張れ、中小企業」って言ってました。すごいな中小企業と。でも私たちから見ると、あんな 100 人以上も人数がいて、年商 100 億と言っていましたよね。そこは私たちからするともう大手です。申しわけないんですけども。もっと小さな 100 人以下の中小零細企業が 8 割なんです。なので、そこに届くような施策を打ち出してほしいなというのがまず 1 点あります。それをしていただかないと雇用が回復しないですし、若い子たちもこの富士市に戻ってきてくれません。

実際に私の長男は大学を出ました。うちは家業がありますから戻ってきましたが、彼の友人で大学を出た人は一人も富士市に戻ってきていません。それは働く場所がないからだと言いました。若い者たちに魅力がある働き場というのをやっぱりどんどんつくっていかなくちゃいけないですね。産業が活性化して雇用が充実しているところをしていかないと、若い人たちは戻ってこないし、働く世代の人口が増えていきませんので、やっぱり寂しい都市になってしまうと思います。なので、この中小零細企業に対してのこ入れをぜひお願いしたいなというふうに思っております。

もう 1 つは、子供たちがものづくりというところに関して、もう少し携われるようなことを、先ほどもありましたけれども、職業訓練とか職業体験とかインターンシップとかで増やしていただきたいし、工業高校を出た後に受け入れてくれる、富士市に残れるように

受け入れてくれる工業の専門学校とか、工学部とがあるといいなということを感じます。

去年、求人により市内の工業高校に行きました。求人は3倍来ていると言いました。でも、愛知や神奈川の大手自動車から求人が来ていると言っていました。結構な数です。その名前とうちの名前とか中小企業の名前が並んでいたら、子供たちや親はどこを選ぶかといったら、これは当然のごとく輝いているそっちの名前を取られますよね。そうすると皆さん県外へ出ていってしまいます。県立の、しかも富士市にある工業高校で一生懸命みんな頑張って育ててきた。けれども、ここには残らずに外に出ていってしまう。出て行ってしまうと、なかなか戻ってきてはくれない。

そんなこともありますので、ぜひその後の受け入れ先というか、専門的に習える場所、そんなところもつくっていただけると、もう少しその若い子たちが専門的に特化したところで富士市に残ってくれるのではないかと思います。

知事がいらっしゃいました大学に以前見学に行ったことがあります。驚きました。即戦力で使えるものがものすごくたくさんあったんですね。これちょっと専門用語でわからない方もたくさんあるんですが、自動車業界でいいますとクレーンモデルをつくるということがありますがけれども、クレーンモデルが実際につくれる作業場がありました。NCという大きな機械もありました。

自動車関係で使いますCATIAという、フランスの会社が出しているCAD、すごい高いんですけども、これも入っていました。これは自動車業界で絶対に必要なCATIAというソフトなんですけど、それも実際に大学にいるときに使える。そんなものが浜松にありまして、すごいなと感動しました。

実際にそこから卒業した子をうちの会社でも雇ったりもしましたけれども、そんなふうには即戦力で使える子たちが育てられるような工業のまちとして使えるような専門学校や工学部的なものがあると、もっともっと子供たちは高校を出た後にそこに進んでみようかということで富士市に残ってくれるのではないかなということを感じました。

もう1つがBCPです。BCPマネジメント、一生懸命製作をしてやっております。当然のことながら、静岡県は90%きますよという話が出ておりますので力を入れております。何かあったときにどうしようということをいつも考えています。有事しても何にしても、多分だれか若い人たちにここに住んでねと言っても、ネックになっているのはこの地震なんだと思うんですね。

でも知事がさっきおっしゃったように、静岡はどれだけ長くこの研究をしているか。地

震には特化してノウハウをものすごく持っているはずなので、これをぜひ生かしていただいて、情報をいっぱい出していただいて、それにスマートシティとか、電力はこの地域の電力は地震があっても使えますよみたいなエリアをつくったりとか、あるいは大型店舗と協力をして、ここは何かあった場合にはここを倉庫として使えるし、食料も安心ですよみたいなことを打ち出して行って、静岡がいかに地震に特化して研究をして、安全対策をいかにとっているかということをもっともっとアピールをしていただいて、誘致を頑張っていたいただきたいというふうに思いますし、実際に引っ越してくる人たちにもそんなことをぜひアピールしていただきたいと思います。

企業として、私が今BCPをつくっていて思ったことで1つお願いがあります。これは市にもお願いをしました。これは中小企業でもその下にまた受注をお願いしているところがあります。外注先というんですけれども、それはすべて近場です。私たちが出す外注先は東海沿線ですから、何かあったときには恐らく全部だめになります。なので、このBCPのときに、どこか南海トラフとは全く違うところと提携をしたいと思いました。

ぜひ市を挙げて、あるいは県を挙げて、南海トラフとは全く関係がなく、富士市の企業と同じような業態を持っているところと姉妹都市を組んでいただいて交流をしていただきたい。名刺交換をした後は自分たち企業で頑張りますから、そういうものをつくっていただきたい。地震があったときに、協力体制をとれるようなことをしていただきたい。じゃないと、収入がゼロになってしまいます。協力の会社を持っていれば、大手さんから見捨てられることはないんです。

でも大手は、今この間の東北の地震もありましたけれども、自分たちの中で、東海がだめになったらここ、東北がだめだったらここと、自分たちで外注先を組んでいます。ですからここに地震が起きたときには、ここには仕事が落ちてこなくなってしまう。そうすると、収入がゼロになる企業がたくさん出てしまうんですね。当然のことながら県の収入が減ってしまいます。

なので、そうじゃなくて大丈夫です、うちに発注してもらっても、このままの技術を協力メーカーでやってもらいます。それは南海トラフには関係ないところとちゃんと協力をとってますよとすれば、何割かの収入が得られます。協力メーカーにお金をいっぱい払ったとしても、そこの管理費用なんかはうちでとれるわけですから、そういうことができます。なので、ぜひ南海トラフの影響のないところと姉妹都市提携を結んでいただいてやっていただきたい。

これがなぜ企業で難しいかというところからです。競合のところのうちがこの電話をして、協力してくださいなんて言うと、これはなかなか難しいんです。行政でちょっと上のところで何かを結んでいただいて、それを下に落としていただければなということをお願いしたいというふうに思っております。

それで最後に、これはお礼も込めてなんですが、新素材セルロースナノファイバーの件です。これは自動車の開発をやっているというところでは3、4年前から、さんざん話が出てきました。ヨーロッパの方のセルロースナノファイバー、動いておりましたので、こちらをまず実験に使っていたところは自動車業界では多いです。でも、恐らく日本でつくるセルロースナノファイバーの方が実際的には質もよく安全性も高いものができるはずなので、今大手はこぞってこちらに対して非常に興味を引いています。うちの会社にも問い合わせはたくさん来ております。

ありがたいことに、ここは製紙業というところで富士市にそのセルロースナノファイバーのキックオフをここでやっていただいたり、フォーラムを築いていただいたりということをやっていただきました。ちょうど製紙業界がちょっと下火になり始めていたという状況もありましたので、私は富士市の産業としては非常にありがたいものだというふうに考えております。

ただ、抽出に関しては製紙会社さん等々が特許を持っておりますが、電子産業の方に関しましては、まだまだこれからのところで、これはカーボンが出てきたときと同じような動きをしております。まだ年数はかかりますが、必ず植物性ということで全世界が動いていますので、いい素材になると確信をしております。

ただ、これは私の会社の力がないんですけれども、サンプルが手に入りません。せっかくフォーラムという中で組員になっているにもかかわらず、サンプルの入手がなかなかできてこないんですね。大手の名前を挙げれば、きっとサンプルをいただけるのかもしれないんですが、サンプルがなかなか下りてこない。これを樹脂と攪拌しながらいろいろな使い道を研究開発したいんです。

一部のものはいただいて、研究開発をしたんですが、乾燥の方法によって、そのセルロース自体が曲がってしまったり、真っ直ぐなものではなかったりするので、曲がっているものを幾ら攪拌しても固まってしまって混ざらないんですね。乾燥した状態で真っ直ぐじゃないと攪拌ができないんですが、そういうサンプル的のもをもう少し出していただけるような、安易に出していただけるような方策がとれないだろうかというのを非常に感じて

おります。

県の工業センターさんの方では入っているようなんですけども、なかなかそれがいただけないという実情があります。ぜひこの富士市にその研究所とか、プラントとか、県を挙げて応援をしていただいて、富士市の産業としてそれを盛り上げていただきたいということを感じております。

新しい産業としてこれから注目があがり、また自動車産業に携わる人間として、非常に各社がここに対しては力を入れ始めているというところが目に見えて、もう本当にここから先私はしゃべれないような機密情報がいっぱい入ってきておりますので、ぜひ富士市の産業として落としていただきたい、研究所、プラントをつくっていただきたいと思います。よろしく願いいたします。

【発言者6】

皆さん、こんにちは、発言者6です。先ほどから話を聞いていて、不思議と女子駅伝を思い出しました。それはなぜかという、スタートを切る方が得か、最後を飾る方が得かと思っていましたけれども、話すことが皆さん難し過ぎて、これから僕が楽天的なことを言うと、何か間違いかなというふうな思いがしました。

いろいろ企業、お話、政治・経済というのは芸術としっかり結びついています。それは現実的にそうです。実際、好景気ของときには芸術作品がすごく売れます。不景気的时候には、芸術作品は残念ながらもなかなか売れません。ただ、そこで一番大事にしなきゃいけないのは、そういう芸術活動、文化活動が皆さんの心に打つことは確かなんですね。

僕は大学を出まして、彫刻を専攻しているんですが、戻ってきて40年近くになります。それからちょっと近くの高校で講師をしたり、自分のところで絵を教えたり、それから芸術活動をいっぱいしているわけですけども、その基本に何があるかという、心の豊かさとか、和んだりとか、人を癒やすという部分もすごく大事なところなんですね。

そういう中で少しでも富士市のために貢献できたらということで、富士芸術村というのを11年前に立ち上げまして、市民の皆さんの力を借りまして、いろいろな活動をしてきました。現在も継続できているということは、それは何よりも市民の皆さんの力ですね。というのは、芸術村はほとんどボランティアで成り立っていました。僕自身もそうなんですけれども、でも最近は少し変わったことがあります。それは市民だけではなくて、企業も行政も政治の世界も芸術村を通しまして、それぞれがうまく連携できるような空間ができたのではないのかなと思います。

話を戻しますと、今日はアンカーの方がよかったなという感じがします。それは皆さんに想像力と、あとは創る力、発想力も皆さんに最後にアンカーとしてお伝えできたらいいかかなと思っています。

皆さん御承知のとおり、富士市は 50 周年を迎えます。その 50 周年に向けて、今、行政とか企業とか市民の方がいろいろ動いてくれています。次に東京オリンピックが控えております。夢物語で終わるかどうかわかりませんが、まずは夢を持ってそれに向かっていくということが芸術の力ではないでしょうか。そういう中で許される芸術家と言えるかどうかかわからないですけども、割合にいい加減なんですよ。夢のあるようなことばかり言って、そんなに実現しなくてもいいやとか、やるだけやってみようというちょっといい加減なところがあるんですけども、でも僕の生き方としたら、それが一番大事なんです。

それは今富士市民が向かっていきたい、静岡県民が向かっていきたいというのは、今のところ東京オリンピックじゃないのかなと考えています。富士市には幸い県の方と関係するところは、こどもの国というところがあったりします。富士山麓を静岡県だけではなく、山梨県も含めまして、富士山を一周回れるような芸術文化活動を東京オリンピックに向けてやったらどうだろうと考えています。

そういう中で今何人かの方と富士山文化遺産になったときに、市民団体で「オール富士さん！」というのを立ち上げました。そこにはいろんな職種の方、年齢の方が集まりまして、じゃみんなで文化遺産をどう盛り上げたらいいかということでいろんな活動をしています。

先日、とある会社が、私たちの活動に賛同してくれてびっくりしました。150 人の社員の方が清掃に参加してくれました。本当にありがたいことです。

そういう中で、気がついたことがあるんですけども、富士市民の方は一人一人はすごい想像力とそういうボランティア的な精神を持っている方が多いことを実感しました。それでどういうふうにしてそういう方向性に向かったらいいのかなという舵取り役が、今皆さんと活動している「オール富士さん！」というものなんだろうなと思っています。

芸術家というのは何か堅苦しくて、何か偏屈な人間が多いと思う方がいると思いますけれども、僕自身は田子の浦で育ちまして、割合自由に伸び伸びやらせていただいて、一番芸術的なことと言えば、やっぱり人の繋がりなんですね。そういう繋がりを持てるところが芸術・文化なんですね。

ですから、ものを考えたり、創造したり、発想したりする力を富士市民の皆さん持てば、大きな一つのかたまりというか財産になっていくのではないのでしょうか。

今日ここにお集まりの皆さんのいろいろな考えを1つの形にしながら、富士市の50周年を皆さんで祝いながら、東京オリンピックには僕の夢なんですが、海外から富士山を見ながら、例えば絵の鑑賞をしたり、彫刻の鑑賞をしたり、もしくは音楽を聞いたり、演劇をしたり、いろいろな芸術・文化活動ができるような空間づくりを皆さんと一緒に東京オリンピックに向けて頑張れたらいいかなと思います。

今日、県知事が見えていますし、富士市の行政の方もすごい努力なさっていて、芸術・文化を盛り上げようということで、文化振興課の方が見えてお話を聞いてくれていますし、市議員の方とか県議員の方もお話を本当によく聞いてくださって、市民の方には富士の芸術文化を語る会みたいな会をつくっていただいてお話を聞いていただいたりしています。

そういう中で、市政50周年と東京オリンピックを富士山を見ながら来ていただけるようなまちにしていくことが、これからの富士の芸術・文化につながっていくんじゃないかと思っています。ありがとうございました。

【川勝知事】

発言者5さん、発言者6さん、ありがとうございました。感心しました。本当に感心しました。

発言者5さんの話を授業でやってもらったらいいですね。高校3年生でもいいし、大学でもいいですし、非常に現場に密着しながら社会のことに議論を広げていってくださっているので、大変勉強になりました。

そしていわゆる壮年熟期、すなわち66歳から76歳の方が会社で1割働いていらっしゃるということでございましてありがとうございます。これが理想ですね。

それから武漢まで今飛行機が富士山空港から飛んでおります。海外の乗降客数の数ですが、全国成田とかあるいは関空とか羽田も入れて8位、地方空港ではナンバー1です。そういう空港に育っているんですが、空港に行かれるとおわかりのように、国内線、国際線が小さなビルで、入るところは2つしかなくて、すごく混雑しているんです。ですから、むだなものを一切つくらないという形で空港ビルができましたので、手狭になっておりますので、これを拡張いたします。

今の建物は海外に行くためにパスポートチェックだとか、いわゆる入ってきたときの検

査とか、検疫の検査だとか、さまざまな国がやるべき仕事ができるようになっているんですよ。そこを国際空港にしまして、内陸側のところに国内線専用のものを併設いたします。この間を通り抜けが自由にできるようにいたしまして、空港ビルとして1つの充実したものをつくっていかうということです。

それから空港ビルの内側というか、内陸側、西側の方にオフサイトセンターというこれがこの3月にでき上がります。オフサイトというのは、浜岡原子力発電所の場所はオンサイトです。オフというのは離れているという意味。もし浜岡で何かがあるときにそこが現場の本部になっている、それがこの3月にでき上がります。このオフサイトセンターと空港ビルの間が2.5ヘクタールぐらいあるんですよ。そこにホテルができます。

そしてもう1つは航空機博物館というんですか、実は日本の航空機の歴史というのは100年ぐらいありまして、そうしたものがあちらこちらに散らばっているんですが、今まで東京にあったやつが置けなくなったということで全国を巡っているんですが、最終的な置き場所を静岡にしたいという話があります。

それから、ある大学に航空工学コースというのがあるんです。そこも飛行場のそばで青年たちを教育したいとおっしゃっているんで、そうすると航空博物館とそういう教育機能を一体にしたようなものをつくろうということで、これからは退屈しないで済むようにしたいというふうに思います。

空港の件につきましては、これは発展していきますから、そして新東名、1号線、それから新幹線、空港、それから東名ですね、御前崎港、御前崎から金谷まで30kmですけれども、もうほとんど9割ぐらいの高規格道路ができていますから、これも結びつきますので非常に便利なんですね。

日本のど真ん中の、しかも額縁が富士山空港は世界農業遺産のお茶畑です。向こうには富士山が見えますから、あんなきれいなところないですよ。石雲院というところに行かれますと展望台があります。そうすると富士山が向こうに見えて、飛行機が乗り降りする、羽田で写真を撮る人がいますけれども、ただ富士山をバックにして飛行機がこんなきれいなところどこにもないですよ。

それから中小企業、そうなんです。静岡県の場合には事業所は20万ぐらいあるんですけども、98%が中小企業なんです。ここが支えているんですね。ですから我々は、まずしっかり条例をして、みんなで励ますということを堅持するという条例をしっかりいたしまして、その精神に基づいて御支援を申し上げます。

その中で一つBCPのことを言われましたけれども、これは企業が事業が継続していく計画のことなんです、Business Continuity Plan というその略語なんです、もし何かが起こってもちゃんと仕事が続けられるように計画をあらかじめ立てておきなさい、これをBCPといいます。

富士市出身で金沢工業大学の学長がいるんですよ。その金沢工業大学に今370~380名の静岡県出身の学生さんが勉強しに行っているんですよ。その学生さんたちをこちらに返していただくための契約を結んだんですよ。同時に、こちらはいろいろ仕事の情報を向こうに差し上げて、向こうからまたインターンをしたいということであれば学生さんが数千人いらっしゃいますので、いつでもお迎えをするということで交流を、日本海側ですから、金沢というのは今北陸新幹線が行っているところですね。加賀百万石のところと全然違うところですから、ここがいいんじゃないですか。

学長先生に川勝から紹介されたということで、あるいは私たちの方でこういう違うところと、向こうも匠の技がすごいんですよ。今はどうか、冬でしょう、今年は雪が少ないですが、大体雪に閉ざされるんですね。だから加賀の漆だとか友禅だとか、もう非常に細かい仕事が発達するんですね。ですから匠の技というのは、案外日本海側の方が発達している。そういうわけで、そこと結びつくというのは、すぐにお答えできたところですね。

それからCNF、これはセルロース、まさにこれは革命です。しかも静岡県ご出身の先生がこのセルロースを砕いて、これを固めると鉄の5分の1の重さで5倍の強さ、ものすごいものができる。今は炭素でやっているわけです。しかしこれは石油からできるでしょう。これは繊維でだれのための発明か、富士市のため、静岡県のためだと。なかんずく製紙業のメッカであった富士市のためだということで、実は県を挙げてここをメッカにしようということで動いているんですよ。

ただ、大手企業が出てきて、そこが横取りしようとしているというような話で、あるいはそこに一方的なサンプルなどが提供されているというのは不公平ですから、そういうことはやっちゃいけないというふうに思いますので、たしか1月末に全国すべてのそれに関わっている企業に集まっていただいて、それサンプルというふうに言うのかどうか知りませんが、可能性のある商品を見て、うちの中小企業の方たちとマッチングというんですか、出会いをつくらうということで、今日本のトップを走ってやっております。

ところが、今日は実はさっき発言者6さんが自由に、本当にこのところは自由ですね。すばらしい。自由に本当に、田子の浦から富士山見ている人は違うなと思いましたね。も

う本当に自由に語れる基盤があるというか、ですから文化オリンピックはします。実はこの間のロンドンオリンピックは、オリンピックの年よりも次の年の方がイギリスに来た人が多かったんですよ。なぜかという、イギリス全土でオリンピックのときに来られる人たちに、こんなのもやっていますよ、あちらではこれやっていますよということで、全土でイギリスのマンチェスターは工業だ、バーミンガムはこれだ、ケンブリッジはこれだ、オックスフォードはこれだと、全部でそういう文化プログラムをやって大成功したわけです。それをうちでもやろうと。

しかも東京にすぐ近いですから、ですから文化オリンピックといいますか、カルチュラル・オリンピア、これをやると決めてあります。これはもう県も動いておりますので、富士市におきましては発言者6さんを中心にして、あるいはネットワークをつくってやると。一つは富士山それ自体が芸術ですし、駿河湾もこの2月には日本で最も美しい、いや世界で最も美しい湾に認定していただくために働きかけに行きます。そうすると山は富士で、海は駿河湾ということで、その中心に田子の浦がある。こういうことでございますから、ここを芸術。最後、どんなに儲けても、何のためにしているかという、社員の幸福のため、地域の豊かさのため、それは幸せのためですから、幸せをもたらすのが感動です。ですからこれは文化とか芸術なんですね。ですからそれを無視してはならない。お金持ちのためにやるわけではありませんで、そのお金をどう使うか。これをやっぱり心を豊かにするために使う。それがまた新しい想像力を、イマジネーションをつくって、これはクリエイション、もう一つの創造に結びついていくということですから、私は芸術というのは極めて大切だというふうに思っております、ここはふさわしいところではないかというふうに思いました。

【傍聴者1】

富士市の青葉台地区の傍聴者1です。この機会を設けていただいたものですから、言わせてもらいます。私はよく静岡に行きます。

静岡に行くには、どうしても東海道JRか国道1号線か東名、それを使うと必ず駿河湾に、蒲原から由比にかけて波消しブロックがものすごく並べてあるんですよ。それにもまして多いのが久能山のところ、三保からの、あれはもう本当に勘定しきれないほど設置してありますけど、あそこの久能山というのは、古い道路が海のところに沈んじゃって、その隣に今度新しい立派な直線道路をつくってありますけど、あれもいずれはどんどんどん海の下へと引っ張られていっちゃうような気がして、これからも波消しブロックを

どのぐらい今まで設置したか、高価なことは聞いてはいますが、わかりませんが、もしその辺のあれがどのぐらいの金額で今まで使ったかというのがわかれば知りたかったですけど。

ですから今後、波消しブロックを、結局駿河湾というのは非常に海溝が深くて、近年の台風でもってどんどん、どんどん砂地が海の底へと削られている。そうすると幾ら波消しブロックを設置しても、海の底へといずれは沈んでいって、あれは海面に出ていますけど、それが沈下しますと波消しブロックの役目を果たさなくなってくると思うですよ。これからもどの程度設置するか、知事にお聞きしたいと思ひまして話させてもらいました。

【傍聴者2】

富士市の北部の大淵というところに住んでおります傍聴者2と申します。今日は非常に有意義なお話を聞かせていただいて、皆さん教育のことについてお話しされていたんですけども、やっぱり特に義務教育がすごく疲弊していると思うんです。それに対してぜひ県で、特に先生方にサポートしていただきたい。何でもかんでも情報を出せ出せと言うばかりで、先生の本来の教えるという仕事が全然できてないと、私はすごく感じています。だから本来の仕事ができるような体制というのをつくっていただきたいし、まず意識改革というのはお金がかからないので、まず県の中で意識改革をしていただきたいというお願いがあります。

それからもう1つ、私も中小企業の、本当に中小にも引かからないぐらいの小っちゃな製造業にいるんですけども、工業技術センターというのをよく利用させていただいています。ただ、そこにある機器を使おうと思って、ネットで検索して、行くと、実はこれないんだよと、もう壊れちゃってだめなんですと言われて、何だこれほど。ネットで公開しているので、そんなに手間もかからないので、どんどん更新していただいて、使えるのはこれがあるんだよと。よく紹介などはしていただけるんですけど、きちんと更新していただけるにはこれがあって、利用料金はこれこれですよというふうにちゃんとしていただくと、すごく利用しやすい。

それとやっぱり公務員、教職員はちょっと違うのかなと思うんですけども、結構やっぱり上から目線というのがあって、最近は少なくなりましたが、結構恐いというのか、利用する側が利用しにくいような方がいらっちゃって、もっと言い過ぎですけど、フレンドリーな感じで教えたり提案をしていただくと非常にありがたいと思います。ぜひよろしくお願ひいたします。

【川勝知事】

まず傍聴者1さん、実は三保の松原に波消しブロックがありまして、それを富士山を世界文化遺産にするためにイコモスから調査に来られた方が、これほど醜いものはないというふうに言われて、それであそこは構成資産に入れないとおっしゃったんですよ。それは安倍川の土砂が30年代にいっぱい土砂を取ったために供給せられないので、どんどん、どんどんと砂浜が削られたので波消しブロックを置いたらしいです。しかしこれは間違っているということで、自然の海岸づくりをもう一度戻そうということで、10年、20年かかると思いますけれども、今L字型突堤というものをつくりまして、三保の松原の波消しブロックをやがて見えないような丘にしています。

それからイチゴ道路ですね、おっしゃっているのは、久能山の。あそこも誠にきれいなところなのに、波消しブロックが景観を台無しにしているというのはそのとおりで、一時期こうしたものが使われたんですが、これからはもう少し自然とマッチしたような護岸というのが必要だということで、同じような気持ちを皆さん持っていらっしゃると思いますが、もちろん津波や高波から防がなくちゃいけませんけれども、あの方法だけではないという認識を持っているということをお願いしたいと思います。

それから傍聴者2さん、どうもありがとうございました。先生を大切にすることを通して、子供はよくなりませんので、いかにして先生が本来の仕事ができるようにするかということで、社会総がかり、地域ぐるみでやっているということです。その方法はいろいろと今模索をしているところでありますけれども、まずスポーツはいろんな人がいらっしゃるので、学校と上手に組み合わせをしながら、学校の先生は国語が得意なら国語、あるいは低学年の子供たちにはふさわしいことに習熟していただけるようにしていきたいというふうに思います。

それからその技術センターが何か上から目線というのはこれはけしからんことですよ。それからもう1つ、さっきの発言者5さんとの話にもつながりますけれども、ものづくりの県ですので、例えば東部ですと沼津に沼津高専がありますね。非常に優秀です。非常に素晴らしい学校ですよ。こういうところをどうせ学士になりたいということであれば、うちの県立大学なり国立と上手に組んで、学士を出せるようにする、今その試みをやっているんですよ。そうしたときに、今静岡大学は地域の大学として再編するという動きを決めまして、そしてこの4月から今までの理学部、農学部、社会科学部等々ありますけれども、それを全部横断的に社会創造学部というのをつくりまして、この4月から。

そうしたところは皆さんが、特に技術者とかそういう人たちがコミットできるような、つまり地域のための、地域をよくするための研究学術教育機関、こういうふうにしていくという動きが始まっていますので、そういうときにその工業技術センターなどもそこに巻き込んでいく形にやっていきたい、なるべく早くしていきたいというふうに思っております。